

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスきとん（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 13 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 13 日		～ 令和 8 年 1 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和 8 年 1 月 13 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12	(回答数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 25 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問実施後の報告書の在り方、伝達の仕方が充実している。	報告書は保護者の方への手紙のつもりで作成いたしております。お子さんの様子がわかるように難しい専門用語は避け、わかりやすくを心がけております。	もう少し報告書の様式を工夫し、目標と達成店がわかりやすく見れるようにしたいと考えております。
2	専門的知識を持った訪問員が訪問するようにしており、専門外の課題は帰所後に他の専門家と話し解決するようにしている。	所属する専門員が多く、訪問員はすべて言語聴覚士の国家資格保持者で、経験年数5年あります。また、検診や就学訓練経験者のため、専門性や知識もご満足いただけると思います。	課題の把握、抽出をより丁寧に行い、訪問先などの特色に合わせたご助言ができるように心がけてまいります。
3	支援計画の説明、個人情報の取り扱いなど支援の基本を押さえて訪問している。	個別支援計画は当事業所をご利用のお子さんはそちらとの関連性を持たせたものをアセスメント後に作成しています。また、モニタリング、原案の段階での検討を充実させております。	訪問先への誓約書は年度が替わり、校長先生などのご移動に合わせ、毎年提出するようにします。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先とのやり取りが保護者に伝わっていないことが多く、ご不安を感じる保護者がいる。	ご契約時に訪問の流れとして、先生方とお話すること、報告書は同じものを訪問先にも提出していることをお伝えしているが、実際、訪問前の説明なので、イメージすることが難しく、忘れてしまう保護者の方もいらっしゃるようです。	報告書の中に「〇〇を先生と話しました」などわかりやすい言葉を入れていきます。 また、園や学校にもご協力いただき、日頃のお話の中で話題にしてみようことも必要と感じています。
2	訪問に使用する教具や訪問先への配慮がわかりにくい。	訪問員が言語聴覚士のため、明確な教具がなく、教材としてのプリントや構音トレーニングに使用するものは用意できるが、使用する場面は集団内では少ないのが要因と感じます。 配慮として訪問先の支援の方針は崩さず、その中でできる支援を考えていますが、改めてそれをお伝えすることがないため、わかりにくいと思います。	必要なプリント類などをご紹介した際には報告書の中に盛り込むなどのアピールが必要と感じます。 不必要な教具は使用いたしませんので、ご安心ください。 子どもが動揺しないように訪問先の支援方針は変えずにより効果的な支援の提供を提案してまいります。
3	事業所で行われる家族支援プログラムがわかりにくい。	事業所利用のお子さんは行事参加や親の会「くらん」に参加する機会もあるが、保育所等訪問のみご利用のお子さんは訪問先で会うだけなので、親の会への参加が難しいのではないのでしょうか。	行事ごとへの参加を呼び掛ける、親の会の啓発などアピールすることに力を注いで行きます。